

オックスフォード大学のビジネスリーダーシップ教育
：ロールモデルによる思考力・交渉力・人脈の育成

中谷安男（法政大学）

1 背景 オックスフォード大学は Times higher Education で 2016～2021 年の 5 年連続、世界大学ランキングで 1 位である。これまでノーベル賞受賞者 47 名、英国首相 28 名、さらに広く世界のビジネスリーダーを輩出している。同大学に関して日本でも様々な研究がなされている（例 コリン, 2018; 刈谷, 2017）。しかし、多くのリーダーを輩出しているディベート組織オックスフォード・ユニオン(Oxford Union: OU)に関する詳しい報告はあまりない。また、具体的なリーダーシップ教育に関する詳細な考察も行われていない。本論では OU の具体的活動を報告し、招かれたビジネスリーダーのコミュニケーション戦略を検証する。

2 研究 著者は 2002 年より OU のメンバーで、今回は 2019～2020 年に集めた量的なスピーチ・コーパスデータを基に検証を行う。

・データ OU はディベートやゲストスピーカーという形式で世界のリーダーを年間 150 名ほど招聘し、討論、インタビュー、質疑応答を行っている。学生たちは直接リーダーと交流することで、将来のロールモデルを確認し、問題解決能力を身に付けていく。この中で、以下の世界的ビジネスリーダーがゲストスピーカーを務めた際のコーパスデータを主に活用する。

・ザ・コカ・コーラ・カンパニーCEO ジェームス・クインシー

・カルバン・クライン創設者 カルバン・クライン

・LVMH モエ・ヘネシー・ルイ・ヴィトン SE 会長兼 CEO ベルナード・アーノルト
上のデータに加え、TED Talk で講演した AMAZON のジェフ・ベゾス等 100 名のビジネスリーダーのデータを活用した。

・分析方法 これらのコーパスデータを基に、米国・英国の代表的大規模英語コーパスに対し Keyword 分析を行い、リーダーが多用する特徴語を抽出した ($p < 0.001$)。同様にこれらの特徴語に関連するクラスター分析を行い、具体的にどのようにコミュニケーション戦略を構築し、聴衆を誘導し、説得しているのか検証した。

3 結果 ビジネスリーダーが積極的に活用する特徴語と、それに基づくクラスター表現を抽出することができた。この結果、スピーチで積極的に活用するコミュニケーション戦略も明らかになった。また、OU のメンバーは、このような戦略を積極的に身に付けるためディベートトレーニングに励み、将来のリーダーを目指していることが示唆された。